



九州作業療法学会 2022 in 佐賀

Kyushu Occupational Therapy Congress 2022 in Saga

いと
「維 遂」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

プログラム・学会誌

学会会期

2022年 6月18日^土・19日^日 (Web配信)

配信本部
(会場)

ホテルマリターレ創世 佐賀

〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東2-5-15

学会長

山口 洋一

一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人 静便堂 白石共立病院)

主催

九州作業療法士会 会長会



九州作業療法学会 2022 in 佐賀

Kyushu Occupational Therapy Congress 2022 in Saga

いと 「維 遂」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

プログラム・学会誌

学会会期

2022年 6月18日(土)・19日(日)

形 式

Web配信

配信本部
(会場)

ホテルマリターレ創世 佐賀

〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東2-5-15

学会長

山口 洋一

一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人 静便堂 白石共立病院)

主 催

九州作業療法士会 会長会

九州作業療法学会2022 in 佐賀 事務局

一般社団法人 佐賀県作業療法士会

〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566 医療福祉専門学校緑生館 内

E-mail: kyuot2022@gmail.com

INDEX

学会長挨拶	1
祝 辞	2
参加者の皆さまへ	3
座長の皆さまへ	4
発表者の皆さまへ	4
優秀演題の表彰について	5
日 程 表	6
プログラム	8
抄 録	
基調講演	12
教育講演1～3	14
シンポジウム1・2	20
eスポーツ	36
九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画	38
リーダー養成研修会	42
一般演題プログラム	46
組 織 図	52
協賛企業一覧	54
後援団体一覧	55
編集後記	56

学 会 長 挨拶

「維遂(いと)」

～育み、つなぐ。そして明日へ～

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

学会長 山口 洋一

(特定医療法人静便堂 白石共立病院)



この度、九州作業療法学会を2022年6月18日(土)～19日(日)の2日間、佐賀県にて開催致します。

ここ数年は新型コロナウイルス感染症による行動自粛など多くの活動が停滞し、人々の生活様式が変わり、新たな価値観が定着してきています。一方で近年、社会生活のスピード化などめまぐるしく変化する社会情勢の中にあって、我々作業療法士も日々進化しております。作業療法士として当然のことながら、この状況に適応し、対応することが重要な意味を持ちます。クライアントに対し、活動、参加に焦点を当てて働きかけること、そして作業療法士を育成してスムーズに世代交代のバトンを渡すこと、このような「つなぐこと」の重要性を感じております。

そこで今学会テーマは「維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～」と致しました。【維遂(いと)】の「維」には、「つなぐ、ささえる」の、「遂」は「成し遂げる」の意味があります。「つなぐ。つなげて、成果を出す」、正に作業療法の本質が問われるものを掲げております。

このような状況下での「作業でつなぐ、つなげる」という意識は、今後も不可欠な要素であろうと考えます。その対象は、クライアントのみならず、我々作業療法士や地域全体も含まれます。具体的には、クライアントと地域とのつなぎ、多職種と連携することが重要だと認識します。作業療法はこの「つなぎ」という特性としての技術、手法を持ち合わせるアプローチだと信じています。このことは領域や分野を問わず、作業療法士の意図(維遂)として、これまでも実践されてきており、今それが期待されていると言えます。一方で、これまで積み上げた技術や手法を次の世代の作業療法士に伝え、育むこともまた重要な課題です。育むこと、様々な立場やフィールドでつなぐこと、そして未来の作業療法への思いで、学会を展開して参ります。

感染症の収束の目処も立たず、予断を許さない状況にあるため、安心、安全にご参加いただけるように、オンライン開催と致します。たとえ対面でなくとも、多くの作業療法士でつなぎ合える場になれば幸いです。多くの方々のご参加を頂き、この学会が維遂(いと)になればと願います。

2022年3月吉日

祝 辞

九州作業療法学会 2022 in 佐賀 開催にあたって

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 中村 春基



平素より、日本作業療法士協会の活動にご支援を賜り心から感謝申し上げます。
この度、山口洋一大会長のもと、九州作業療法学会2022 in 佐賀「維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日～」が開催されますこと心よりお喜び申し上げます。また、開催に際してご協力いただきました役員、会員、行政、関連団体の皆様に心から敬意を表します。本大会が九州の作業療法の発展に寄与することを確認しております。また、特別講演の機会も頂き、感謝しております。Webでの開催とのことですが、多くの作業療法士のご参加を祈念しております。

さて、せっかくの機会ですので、協会の動向を少しご紹介します。各九州士会の活動とも関連がありますのでご承知いただければ幸いです。一つ目に、協会員＝士会員についてですが、すでに半数以上の士会において規約などの整備はそろっていますが、全国一斉に取り組む必要があること、また、協会システム整備と連動していますので、時間的には2025年ごろになる予定です。

次に、人材育成は士会、協会にとりましても重要課題です。しかしながら、近年の役割、機能の拡充に伴い根本的な見直しが必要と考えています。現在、新生涯研修システムの全体構造は確定し、それに基づくカリキュラム作成を行っているところです。来年度には完成させ、2023年からは各士会で運用していただけるよう準備を進めています。現行制度とは大きな変更がありますので、士会及び会員の皆様には丁寧な説明と資料提供を行ってまいりますので、宜しくご協力をお願い致します。

MTDLPの活用につきましては、MTDLP室を設置し内容、体制構築等総合的に取り組んでいます。臨床実習講習会におきましてもMTDLPを用いた事例で症例検討を頂いているところですが、臨床、学校養成施設での更なる充実が図られることを期待しています。その他、組織改編、第四次5か年戦略策定、システム開発等々、様々な課題に取り組んでいます。その詳細は都度協会機関誌に掲載しておりますのでご確認下さい。

最後に、「作業療法士は作業療法室から出なさい」、これは、45年前、兵庫県リハビリテーションセンター中央病院に入職したおり、当時副院長であられた澤村誠志先生から頂いた言葉です。この言葉の背景には、利用者中心、生活支援、人権の尊厳があると思います。MTDLPの実践を通して、それを確実に実践していただければ幸いです。多くに皆様が参加いただき、明日からの作業療法の充実と、合わせて、皆様のご健勝と各士会の益々のご発展を祈念しております。

参加者の皆さまへ

1. 学会参加費について

(1) 作業療法士(○：加入 ×：未加入)

都道府県士会	OT 協会		金 額
○	○	九州圏内	6,000 円
		九州圏外	7,000 円
×	○	九州圏内	12,000 円
		九州圏外	
○	×	九州圏内	6,000 円
		九州圏外	7,000 円
×	×	九州圏内	20,000 円
		九州圏外	

(2) 他職種等の参加費

	金 額
他職種	7,000 円
一 般	7,000 円
学 生	1,000 円

- 学生は OT 養成コース所属の方のみとします。免許取得者の学生(学部生・大学院生)の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

2. 学会参加受付期間について

学会参加事前登録は： 5月2日(月)～6月10日(金) 正午まで

(※参加費の入金は6月15日(水)まで)

3. お問い合わせ先

九州作業療法学会 2022 in 佐賀 大会事務局までお問い合わせください。

座長の皆さまへ

プログラムの進行に十分ご配慮いただきますよう宜しくお願いいたします。また発表の形式につきましては以下を参照していただき、円滑な進行となりますようご協力をお願いいたします。

発表者の皆さまへ

【利益相反の開示】

近年、多くの学会で利益相反（Conflicts of Interest：COI）についての開示を義務づけるようになってきております。この状況に合わせ、九州作業療法学会2022でも、演題発表時に演題発表に関連する企業等とのCOIの有無および状態について申告することを以下に義務づけます。

【発表形式】

1. 発表方法

- 学会会期は2022年6月18日～19日ですが、演題発表は全て18日です。
- 発表はZoomを使用したオンライン発表となります。
- 発表時間は7分、質疑応答が3分です。時間厳守でお願いいたします。
- 発表では、Zoomアプリをインストールしたカメラ付きのパソコンを使用してください。タブレット・スマートフォンを用いた発表はお控えください。

2. 発表ポイント

- （一社）日本作業療法士協会会員の方は、学会参加により生涯教育基礎研修4ポイント、また筆頭演者はさらに2ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告（25np）として登録できます。
- 演題採択後、①2022年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込、および学会参加費の支払い、③発表までをもって、本学会で発表した事とします。

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択された全ての演題を対象とします。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会で厳正なる審議を行った後、学会長が最終的に決定いたします。

〈優秀演題表彰審査基準〉

- テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
- 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
- 他の参加者が聞いて有効な発表内容である。
- 構成や表現などが優れている。

【発表・表彰】

受賞者の表彰は閉会式で行います。

日 程 表

1日目 2022年6月18日(土) ホテルマリターレ創世 佐賀

	第1会場 ZOOM(ウェビナー)	第2会場 ZOOM(ミーティング)	第3会場 ZOOM(ミーティング)	第4会場 ZOOM(ミーティング)
9:00	9:00～9:15 開 会 式			
10:00	9:30～10:45 基調講演 協会の望む人材、多職種に 望まれること 講 師：中村 春基 オーガナイザー：山口 洋一			
11:00	10:50～11:00 次期学会長挨拶			
12:00	11:10～12:10 教育講演 1 運転と作業療法アップデート ～対象者へのより良い支援のために～ 講 師：外川 佑 座 長：崎田 誠司	11:10～12:10 セッション 1 優秀演題発表 座 長：倉富 眞	11:10～12:10 セッション 2 精神障害 座 長：阿部 数也	11:10～12:10 セッション 3 高齢期① 座 長：米田 香
13:00	13:10～14:10 教育講演 2 作業療法における精神療法的治療構 造論 ―しくみで診・守る患者のこころ― 講 師：中山 広宣 座 長：弓 誠二	13:10～14:10 セッション 4 自動車運転 座 長：竹下 宏史	13:10～14:10 セッション 5 MTDLP 座 長：佐々木 絵里	13:10～14:10 セッション 6 高齢期② 座 長：富永 美紀
15:00	14:30～16:00 シンポジウム 1 認知症の人と家族を地域で支える ～当事者・家族が作業療法士に 求めるもの～ シンポジスト：小池 美鈴 河合 晶子 佐々木 裕志 オーガナイザー：小松 洋平	14:30～15:30 セッション 7 脳血管障害 座 長：南 修平	14:30～15:30 セッション 8 身体障害 座 長：山科 啓太	14:30～15:30 セッション 9 地域・発達 座 長：西村 彬
16:00		15:45～16:45 セッション 10 高次脳機能障害 座 長：佐古 英樹	15:45～16:45 セッション 11 運動器疾患 座 長：兵働 弥大	15:45～16:45 セッション 12 管理運営・教育 座 長：堀 邦広

2日目

2022年6月19日

ホテルマリターレ創世 佐賀

	第1会場 ZOOM(ウェビナー)	第2会場 ZOOM(ミーティング)	第3会場 ZOOM(ミーティング)	第4会場 ZOOM(ミーティング)
9:00	9:00～10:00 教育講演 3 教育・福祉・医療現場から 作業療法士にできること =実践から見えるこれからの支援= 講 師：三澤 一登 座 長：溝上 友喜	9:00～12:00 リーダー養成研修会 九州作業療法士会会長主催 企画報告会		
10:00	10:15～12:15 シンポジウム 2 アシスティブテクノロジーを活用した 生活支援 ～リハエンジニアと OT を繋ぐ～ シンポジスト：柴田 昌知 中村 詩子 小池 保徳 オーガナイザー：淡野 義長	～九州はひとつ！ 人がつながる士会 活動を語ろう！！～		
11:00				
12:00				
13:00		12:30～14:30 MTDLP 企画 MTDLP×臨床×教育 ～ MTDLP を通して 作業療法に見える化する ことの可能性は∞～ シンポジスト：佐藤 純 瀬瀬 功 オーガナイザー：小林 幸治		
14:00	13:30～14:30 e スポーツ e スポーツが社会と繋がる架け橋に ～作業療法士の役割と最新事情～ 講 師：田中 栄一 座 長：植田 友貴			
15:00	14:45～15:00 閉 会 式			

プログラム

基調講演 6月18日(土) 9:30～10:45

第1会場 (Zoom ウェビナー)

[協会の望む人材、多職種に望まれること]

オーガナイザー：

山口 洋一 一般社団法人 佐賀県作業療法士会 会長
(特定医療法人 静便堂 白石共立病院)

講師：

中村 春基 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

教育講演1 6月18日(土) 11:10～12:10

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長：崎田 誠司 (伊万里有田共立病院)

運転と作業療法アップデート ～対象者へのより良い支援のために～

外川 佑 山形県立保健医療大学 保健医療学部 作業療法学科 准教授

教育講演2 6月18日(土) 13:10～14:10

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長：弓 誠二 (医療法人社団 高仁会 中多久病院)

作業療法における精神療法的治療構造論 —しくみで診・守る患者のこころ—

中山 広宣 令和健康科学大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

教育講演3 6月19日(日) 9:00～10:00

第1会場 (Zoom ウェビナー)

座長：溝上 友喜 (社会福祉法人 蓮花の会 理事長)

教育・福祉・医療現場から作業療法士にできること ＝実践から見えるこれからの支援＝

三澤 一登 愛媛十全医療学院 作業療法学科 顧問
(一社)日本作業療法士協会 常務理事
認定作業療法士

〔 認知症の人と家族を地域で支える
～当事者・家族が作業療法士に求めるもの～ 〕

オーガナイザー：

小松 洋平 学校法人永原学園 西九州大学 准教授

シンポジスト：

小池 美鈴 公益社団法人 認知症の人と家族の会 佐賀県支部 世話人代表

河合 晶子 三重県こころの健康センター

佐々木 裕志 医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 作業療法科 主任

〔 アシスティブテクノロジーを活用した生活支援
～リハエンジニアと OT を繋ぐ～ 〕

オーガナイザー：

淡野 義長 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院・
在宅支援リハビリテーションセンターぎんや 認定作業療法士

シンポジスト：

柴田 昌知 一般社団法人是真会 法人本部 テクノエイド部 リーダー 兼 PACS 研究開発部

中村 詩子 北九州市立総合療育センター リハビリ工学技士

小池 保徳 佐賀県在宅生活サポートセンター 所長

座長：植田 友貴 (西九州大学)

e スポーツが社会と繋がる架け橋に
～作業療法士の役割と最新事情～

田中 栄一 国立病院機構北海道医療センター 一般作業療法主任

[MTDLP × 臨床 × 教育
～ MTDLP を通して作業療法が見える化することの可能性は∞～]

オーガナイザー：

小林 幸治 目白大学保健医療学部作業療法学科 教授

シンポジスト：

佐藤 純 介護老人保健施設 花水木

瀬瀬 功 医療法人社団和風会 橋本病院 病棟リーダー

九州作業療法士会会長会主催企画報告会

～九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！～

抄 録

協会の望む人材、多職種に望まれること

中村 春基

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

平素より、日本作業療法士協会の活動にご支援を賜り心から感謝申し上げます。

この度、九州作業療法学会2022 in 佐賀「維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～」におきまして、このような機会を頂き心から感謝申し上げます。山口洋一学会長のご挨拶にありますが、まさに時代にマッチしたテーマと存じます。さて、本日は標記について話題提供を行い、その後、座長の山口洋一大会長及び会場の皆さんと、以下3つの視点で議論ができればと存じます。

一つ目に協会の使命は、国民の健康と福祉の向上と会員の地位向上にあります。それを実現するためには、皆様一人一人の前にいらっしゃる利用者に対する作業療法の質にかかっています。従って、各人において最高の知識と技術に基づいた作業療法の実践をお願いしたい。そのための協会、士会、会員の役割について話し合えればと思います。

二つ目に、皆様の地位向上の最も身近なものに、診療報酬、介護報酬、福祉サービスの報酬があります。この中で職名が記載され、また、点数で評価されることが重要です。そのためには何が必要か？専従会長のほとんどがこのための活動ですが、これは私一人で成し遂げることは無く、会員、士会、協会の総がかりで取り組む必要があります。ポイントは社会が作業療法を理解し、評価してもらえ体制作りです。ストラクチャー、プロセス、アウトカムの観点で議論ができればと思います。

3つ目は、多職種に望まれることについては、活動と参加の専門家としての自覚と対応と思います。OT 協会員の平均年齢は35歳、経験5年目が半数を占める会員構成の中で、専門家としての言動、行動は何か？新任者であっても、作業療法士としての振る舞いができるためにはなど、多職種の視点でふり返れたらと思います。

最後に、祝辞でも述べましたが、「作業療法士は作業療法室から出なさい」、これは、45年前、兵庫県リハビリテーションセンター中央病院に入職したおり、当時副院長であられた澤村誠志先生から頂いた言葉です。この言葉の背景には、利用者中心、生活支援、人権の尊厳があると思います。作業療法に迷ったら、この3つを常にそばに置き組み組んでいただけましたらと存じます。Webでの開催ですが、多く作業療法士の皆様と出会えることを願っています。



略 歴

昭和52年(1977)3月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 卒業
昭和52年(1977)4月	兵庫県社会福祉事業団玉津福祉センター附属中央病院
昭和59年(1984)4月	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院
平成6年(1994)4月	兵庫県立総合リハビリテーションセンター中央病院
平成18年(2006)4月	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター リハビリテーション西播磨病院 リハビリ療法部部長
平成22年(2010)4月	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部部長
平成27年(2015)4月	一般社団法人日本作業療法士協会 会長(常勤役員)

受賞歴

平成17年(2005)	厚生労働大臣 表彰
-------------	-----------

一般社団法人日本作業療法士協会活動

昭和60年8月(1985)～平成1年7月	理事
平成1年8月(1989)～平成13年7月	常務理事
平成13年6月(2001)～平成21年6月	副会長
平成21年6月(2009)～現在	会長

社会的活動

一般社団法人日本作業療法士協会(会長)、チーム医療推進協議会(副代表)、リハビリテーション機能評価機構(理事)、公益財団法人国際医療技術交流財団(評議員)、一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団(評議員)、公益財団法人訪問看護財団評議委員、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会理事、公益社団法人日本脳卒中協会理事、日本訪問リハビリテーション協会(監事)等

著 書

脳卒中の在宅リハビリテーション(編集責任者)、作業療法各論・義手(リハビリテーション医学全書)、障害筋骨格系理学療法(系統理学療法)、義肢道具学(理学療法テキスト)、理学療法 MOOK 義肢装具・義肢、作業療法のとらえかた(糖尿病に対する作業療法)

一般演題 プログラム

一般演題

セッション1 6月18日(土) 11:10～12:10

第2会場 (Zoom ミーティング)

[優秀演題発表]

座長：倉富 眞 (医療法人清明会 きやま鹿毛医院)

SS-1 健常者における言語を用いた音源定位に対するプリズム順応の影響

松尾 崇史 熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科

SS-2 FIM 認知項目と退院先との関係性

牟田 健人 一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

SS-3 中指玉井分類 zone IV切断指再接着術後に早期運動療法を行った1例

松延 勇志 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

SS-4 当院の通所リハビリテーション利用者における MMSE と2ステップ値の関連性の分析

山口 未貴 町立太良病院

SS-5 機能的グループモデルに基づく学内実習の学修効果 ～自己効力感と職業的アイデンティティの変化～

青山 克実 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

セッション2 6月18日(土) 11:10～12:10

第3会場 (Zoom ミーティング)

[精神障害]

座長：阿部 数也 (医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院)

01 若年層のネガティブな反すう思考の実態調査

田縁 麻衣子 医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

02 座位姿勢の変化が認知症患者へ与える影響

田縁 尚 独立行政法人国立病院機構 菊池病院

03 精神科救急病棟におけるレクリエーションの効果検証 ～気分の変化に着目して～

竹谷 健太郎 医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

04 うつ病患者に対する運動アプローチ ～患者の声をもとに運動の治療因子を分析～

前川 貴俊 特定医療法人富尾会 桜が丘病院

05 長期間ひきこもりの統合失調症患者に対する再発予防 ～社会とのつながりの回復を目指して～

増田 達也 医療法人 社団豊永会 飯塚記念病院

セッション3 6月18日(土) 11:10～12:10

第4会場 (Zoom ミーティング)

[高齢期①]

座長：米田 香 (町立太良病院)

06 作業療法の可能性を拡げた互助の力
～利用者と友人で成し得た喜びの瞬間～

西村 彬 九州大学大学院 統合新領域学府ユーザー感性学専攻
感性コミュニケーションコース 博士前期課程

07 回復期リハビリテーション病棟退院時の ADL が
介護負担感に及ぼす影響について

岩本 枝李咲 社会医療法人寿量会 熊本機能病院

08 長期療養患者における趣味活動再開に向けた取り組み
～ MTDL P を活用した主体的な目標設定を大切に～

自見 美菜 医療法人杏林会 村上記念病院

09 当院の通所リハビリテーション利用者の4ヶ月間の変化と
作業療法士の役割の考察

松尾 采奈 町立太良病院

セッション4 6月18日(土) 13:10～14:10

第2会場 (Zoom ミーティング)

[自動車運転]

座長：竹下 宏史 (医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院)

10 運転支援後の追跡調査からみえた傾向と今後の課題

甲斐 亨 社会医療法人小寺会 佐伯中央病院

11 その人らしい暮らしの再構築を目指した運転支援のあり方を考える (第1報)
— 当院外来の運転支援の現状と症例の支援経過を振り返って —

仲野 綱一郎 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院

12 SDSA と他の神経心理検査との関係性について

秀島 樹育 社会医療法人三校会 宮崎病院

13 数回の実車評価により自動車運転再開可能となった左被殻出血の患者との関わり

高松 孝成 医療法人清和会 平成とうや病院

[MTDLP]

座長：佐々木 絵里 (医療法人 清心会 服巻医院)

14 頸椎術後 C5 麻痺を呈した症例に対する機能改善・ADL 向上を目指した介入
～急性期にて MTDLP を活用した症例～

藤野 歩 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

15 生活行為向上マネジメントを用いた介入により
娘の協力を得ながら生きがいであったカステラ作りを再開できた一事例

木原 翔太 社会医療法人 寿量会 介護老人保健施設 清雅苑

16 重度右麻痺を呈し急性期にて MTDLP を用いて介入した症例
～自宅復帰し孫を両手で抱きしめられるように～

田中 智隆 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 リハビリテーション科

17 多職種での関わりが自信の回復に繋がった症例
～ MTDLP を活用して～

大崎 亮 社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会唐津病院

[高齢期②]

座長：富永 美紀 (多久市役所 地域包括支援課)

18 薬剤性パーキンソニズムを有した事例の在宅復帰とその後の経過
～薬物有害事象に気づいた OT はどのような介入を行ったか～

川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー

19 交流の場が生活の質へもたらす効果

小野 興輝 医療法人平川病院 介護老人保健施設アメニティきゅうらぎ

20 要介護者のデイケア卒業要因について

西 秀崇 医療法人 天心堂 志田病院

21 認知機能低下の有無による買い物時の困りごとの違い

仙波 梨沙 西九州大学

22 多職種連携と個別性を持った作業療法の重要性

重藤 ひかる 社会医療法人敬和会 大分岡病院

[脳血管障害]

座長：南 修平 (医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院)

- 23** 機能的電気刺激 (FES) で上肢随意の向上と意欲向上により
ADL 自立に繋がった一例
宮崎 光成 医療法人社団 威光会 松岡病院
- 24** 脳梗塞を呈した症例への車椅子シーティング
～麻痺側上肢での食事動作獲得に向けて～
猪口 達也 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院
- 25** COPM を導入し ADL 獲得が図れた症例
～自己効力感の再獲得と家族との関わり～
財津 三奈美 社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院
- 26** 回復期リハ病棟における脳卒中片麻痺患者の麻痺側上肢を
生活場面で使用するための支援
～課題指向型アプローチと麻痺側上肢チェックシートを導入した事例～
園田 穂茹美 社会医療法人 令和会 熊本リハビリテーション病院
- 27** 脳卒中後、上肢の軽度運動麻痺患者へ
促通反復療法と課題指向型訓練の併用療法後に modified CI 療法を実施し、
日常生活での使用頻度、動作の質の向上と継続に繋がった一症例
武次 周介 社会医療法人財団白十字会 耀光リハビリテーション病院

[身体障害]

座長：山科 啓太 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会唐津病院)

- 28** 呼吸器疾患患者の入院期間長期化の要因分析
—ロジステック回帰分析による要因—
重藤 旭 医療法人社団 高邦会 高木病院
- 29** 促通反復療法と前腕回内外リハビリ装置の併用療法により、
上肢手指機能に良好な結果を得た頸椎症性脊髄症患者の一例
小川 耕平 医療法人玉昌会 加治木温泉病院
- 30** COVID-19 感染後の筋萎縮と脳梗塞による重度上肢麻痺に電気刺激療法を実施し、
意味のある作業の獲得に繋がられた症例
吉村 郁香 社会医療法人財団池友会 福岡和白病院
- 31** 小脳脳挫傷による拮抗運動反復不全に対しリズム運動が有効であった一例
高倉 沙樹 社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター
- 32** 当院一般病棟における肺炎患者の再入院率と現状と課題
山下 幹太 医療法人社団東洋会 池田病院

[地域・発達]

座長：西村 彬 (九州大学大学院 統合新領域学府ユーザー感性学専攻
感性コミュニケーションコース 博士前期課程)

- 33** 『一緒にいて楽しいです』
～福祉用具活用して夫の介護不安軽減が得られた事例～
山中 勇人 医療法人 智仁会 佐賀リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション吉原
- 34** 【知的及び身体障害を呈した症例の就労支援】
本人の「働きたい」をサポートする体制の構築
清水 由佳 特定非営利活動法人ゆとり 新武雄在宅復帰への道の家
- 35** 当院短時間通所リハビリテーションの治療成績
兵働 弥大 医療法人 尽心会 百武整形外科スポーツクリニック
- 36** 精神科デイケアセンターにおける橈骨遠位端骨折受傷者への介入
～自作のペグボードを用いて手指の自主運動訓練を指導～
松葉 幸典 医療法人祥風会 甘木病院
- 37** 脳性麻痺を伴う頸椎症性脊髄症術後の作業療法
～生活行為向上マネジメントを用いて～
西 優伽 社会医療法人財団池友会 新小文字病院

[高次脳機能障害]

座長：佐古 英樹 (医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院)

- 38** 毎日の振り返りノートを用いた作業療法により、
肯定的なセルフフィードバックが可能になった一症例
～高次脳機能障害、重度感覚障害に対する認知行動療法の効果検討～
井形 恵実 公益財団法人健和会 大手町リハビリテーション病院
- 39** 自己効力感の向上を促し活動・参加の改善をめざして
～頸椎硬膜内髄外腫瘍術後で抑うつ傾向となった症例への介入～
宮崎 真由 医療法人社団東洋会 池田病院
- 40** 回復期リハ病棟における左片麻痺患者の復職に向けた介入
～模擬的練習が有効であった一症例～
小野 仁美 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院
- 41** 急性期にて病棟内のADLが自立している
若年性脳卒中患者に高次脳機能評価を実施した事例について
今山 幹太 社会医療法人財団池友会 新小文字病院

[運動器疾患]

座長：兵働 弥大 (医療法人 尽心会 百武整形外科スポーツクリニック)

- 42** LRSA を施行した母指 CM 関節症術後患者の短期経過に破局的思考は影響するか
有川 智之 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション科
- 43** 橈骨遠位端骨折の術後早期安静時痛が与える関節可動域制限の特性とその要因
野村 百香 溝口外科整形外科病院 リハビリテーション科
- 44** 障害受容に着目して行動範囲や自主訓練に変化が見られた症例
～現職復帰を目指して～
眞鍋 宇 社会医療法人財団池友会 福岡新水巻病院
- 45** 自動運動不良な前腕コンパートメント症候群へのアプローチ
～食器把握動作の獲得を目指して～
宮川 達好 医療法人山部会 くまもと成城病院
- 46** 重度熱傷による両下肢下腿切断患者の自宅退院へむけて
～コロナ禍における家族の在宅生活に対する不安への介入～
宮原 優太 社会医療法人 製鉄記念八幡病院

[管理運営・教育]

座長：堀 邦広 (地域医療機能推進機構 佐賀中部病院)

- 47** 精神障害分野は測ろう
— 精神障害分野作業療法士の評価実施に関する実態 —
杉村 彰悟 医療法人仁祐会 小島居諫早病院
- 48** 「タイプ分け™」を活用し日々の業務,
フィードバックを工夫した新人職員の指導経過報告
三宅 陽平 社会医療法人財団 白十字会 耀光リハビリテーション病院
- 49** 産業保健分野での作業療法という可能性
～「おおいた心と体の職場環境改善アドバイザー」派遣事業を通して～
児玉 隆典 公益社団法人 大分県作業療法協会
- 50** 消化器外科手術患者における倦怠感と ADL の関連性
中島 大輔 地方独立行政法人 北九州市立医療センター
- 51** 肩関節筋力測定における小型デジタルスケールの臨床有用性に関する研究
宮本 忠司 熊本大学病院

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名（敬称略）	勤 務 先
三 役	学 会 長	山口 洋一	特定医療法人静便堂 白石共立病院
	副学会長	小池 保徳	佐賀県在宅生活サポートセンター
	実行委員長	江渡 義晃	一般社団法人 わたぼうし
学 術 局	局 長	前田 憲志	医療法人清心会 服巻医院
	副 局 長	中倉 孝行	医療法人天心堂 志田病院
	企画部長	仙波 梨沙	西九州大学
	部 員	伊藤 恵美	西九州大学
		尾崎 望美	医療法人二期会 小島病院
		尾鷲 百佳子	社会福祉法人若楠 若楠療育園
		松江 志保	医療法人啓仁会 橋本病院
		堀田 和也	株式会社ルーツ 訪問看護ステーションバルーン
		西村 愛	伊万里有田共立病院
		諸岡 健志	社会福祉法人恩賜財団 済生会唐津病院
	査読部長	植田 友貴	西九州大学
	部 員	押川 武志	西九州大学
		松尾 萌美	西九州大学
	編集部長	藤原 和彦	西九州大学
	部 員	松谷 信也	西九州大学
		千綿 寛美	特定医療法人静便堂 白石共立病院
		田中 希	特定医療法人静便堂 白石共立病院
		猪口 達也	医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院
	相 談 役	江渡 義晃	一般社団法人 わたぼうし

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
運 営 局	局 長	寺崎 司	医療福祉専門学校 緑生館
	副 局 長	佐々木 裕志	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院
	会場運営部長	桑原 知泰	医療法人 信愛整形外科医院
	会場運営副部長	鬼塚 北斗 中尾 亮太	一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 特定医療法人杏仁会 神野病院
	部 員	阿部 数也 前田 瑞貴 牟田 健人 林田 捺月 田中 智隆 佐古 英樹 谷口 史弥	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院 医療法人智仁会 佐賀リハビリテーション病院 特定医療法人静便堂 白石共立病院
	懇親会担当	小松 友明 田中 知基	株式会社 ゆうあい 特定医療法人杏仁会 神野病院
	企業展示担当	石原 伸二郎 本村 祐介	介護老人保健施設 ふれあいの里 道海 介護老人保健施設 徐福の里
	アナウンス部員	富永 美紀	多久市役所 地域包括支援センター
		大石 華子	医療法人清明会 やよいがおか鹿毛病院
	相 談 役	小池 保徳	佐賀県在宅生活サポートセンター
事 務 局	局 長	熊谷 隆史	医療福祉専門学校 緑生館
	総務部長	井本 文也	医療法人醇和会 有島病院
	部 員	石田 真由	医療福祉専門学校 緑生館
		瀧下 勇介	医療法人醇和会 有島病院
	広報部長	植村 雄磨	医療法人朋友会 山口病院
	部 員	高森 朱里	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院
		武富 妃美希	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院
		坂本 はるか	医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院
	デザイン班	前田 絵里奈	医療法人 ひらまつ病院
		横尾 篤	医療法人 ひらまつ病院
	財務部長	中山 泰人	医療法人 ひらまつ病院
	部 員	清水 貴之	医療法人 ひらまつ病院
		山本 剛平	医療法人 ひらまつ病院
		武富 裕子	医療法人 ひらまつ病院

編集後記

このたび、九州作業療法学会 2022 in 佐賀の学会誌を皆様にお届けすることができたことを、たいへん嬉しく思います。また、本誌の作成に携わってくださった多くの方々に対し、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

さて、本学会のテーマは、『維遂(いと)～育み、つなぐ。そして明日へ～』です。世界的に拡大する新型コロナウイルス(Covid-19)感染症の影響を受け、私たちの暮らしや生活様式は変化してきました。その中で「作業療法」は、今後どのように在るべきなのでしょう…。「これまでの伝統を育み、未来へつないでいく作業療法」、そして、「新たなものを創造していく作業療法」、今後の発展には、そのどちらも欠かせないものと考えます。

わが国は、もうじき 2025 年問題に直面します。ポストコロナ・ウィズコロナの時代に起こるであろう多くの社会問題に対し、本学会が「維遂(いと)」する議論の場を提供できれば幸いです。

さいごに、本学会を開催するにあたり、ご支援いただきました各団体・法人の皆様方に謹んで感謝申し上げます。今後も九州作業療法学会は、作業療法の専門性を育み、そして来へつないでいくことで、地域社会へ貢献できると信じています。九州における作業療法が益々発展することを祈念し、編集後記とさせていただきます。

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

編集部長 藤原 和彦

〈次期開催予定〉

九州作業療法学会 2023 in 鹿児島

未来へ

～作業療法の創造と融合の可能性～

会 期：2023年7月8日（土）・9日（日）

会 場：かごしま県民交流センター
（〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町14-50）

学会長：吉満 孝二（鹿児島大学 医学部 保健学科）

主 催：九州作業療法士会会長会

九州作業療法学会 2022 in 佐賀

発行者：九州作業療法士会会長会

事務局：一般社団法人 佐賀県作業療法士会
〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566
医療福祉専門学校緑生館内
E-mail：kyuot2022@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



九州作業療法学会2022 in 佐賀 事務局

一般社団法人 **佐賀県作業療法士会**

〒841-0074 佐賀県鳥栖市西新町1428-566

医療福祉専門学校緑生館 内

E-mail: kyuot2022@gmail.com

学会HP <https://kyuot2022.secand.net/>